

編集後記

この『sipeto』も今号で創刊2年目を迎えようとしています。インタビューや設置にご協力いただいた皆様、読者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

私は2年目からYnet.に携わるようになりましたが、標津町にはこんな方たちがいるんだ！という新たな発見ばかりの1年でした。

今回のインタビューでは、標津町での居場所づくりや仲間づくりを通して町や町の人たちのために活動しているお二方をご紹介します。「何かできることはないかな？」というところから居場所づくりやそば作りや鮭ぶして町おこしを実現されていて、自分たちもそういう気持ちで何かできることを探してみたくなりました。一人ではなかなかできないけど、同じ思いを持っている人が集まれば必ず何か起こせると思います。『sipeto』を通して、「こんなことができるんだ。それなら自分もやってみようかな」というきっかけになればと思っています。

来年度は標津町の様々な人たちを知ってもらうだけでなく、もっと『sipeto』に対する感想やご意見・ご提案などを取り込んでいける仕組みづくりを考えていきたいと思っています。3年目を迎える『sipeto』を引き続きよろしくをお願いします！

(O)

— Special Thanks! —

あかつきダイニング
A マート
川北郵便局
郷土料理武田
ぎんれい精肉店
くるくる2
合田商店

後藤商店書店部
標津漁協直売所
標津郵便局
セイコーマートこんどう標津店
セイコーマート標津まるよし店
セブンイレブン標津町店
大地みらい信用金庫標津支店

ファミリーレストランいしばし
福住
ホームックニコット
ボンノウシテラス
Kuni OFFICE
まんまでいーしょ
美しい村そば造り研究会
知床標津マルワ食品

Follow us on Facebook & Instagram & Twitter !!!

記事に収まらなかったこぼれ話やインタビューの様子などを更新！検索してみてくださいね。



Facebook



Instagram



Twitter

— Information —

しべつろーかるふりーペーぱー

sipeto

Nº8
Winter 2020



We are Ynet.!!!

2020年2月7日発行
発行人 Ynet.
発行所 〒086-1632
北海道標津郡標津町北2条西1丁目1番3号
標津町役場企画政策課内
TEL.0153-82-2131
FAX.0153-82-3011

●バックナンバーのご希望は上記までご連絡ください
●次回発行は2020年4月の予定です

Nº8
Winter
2020

Take Free



しべつろーかるふりーペーぱー

sipeto

Shibetsu Civic Pride Project by Ynet.

[CONTENTS]

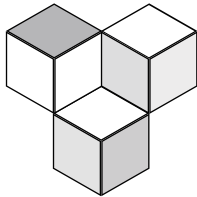
発刊にあたって / Places related to “sipeto”
インタビュー 16 佐々木和美さん - 17 田村正範さん
編集後記 / and more



Ynet.



Let's Open!!!



Shibetsu Town

Ynet.

皆々まのおかげで
2年目突入！！

Thank you

発刊にあたって

皆さんこんにちは。本紙を手にとっていただきありがとうございます。

私たち「Ynet.」は町民活動の活性化、町内ネットワークの拡大・構築を目指し組織された役場職員で構成するグループです。標津町には様々なまちづくりに関係する活動をしている団体や個人の方がいて、実際にお会いしてみると、標津町にはこんなにも味わい深い人たちがいるね、っと気づかされました。本紙の表題「sipeto(シペト)」は標津の語源になったとされるアイヌ語「シペツ」と日本語の「人(ト・to)」を掛け合わせた造語で、標津に住む活動的な方々をたくさんの方に知っていただきたく名付けました。

sipetoを通じて人の活動に込められた『想い』に触れて、知って、共感して、共に活動する方が一人でも増えることになればうれしく思います。

Ynet.

Touch, Know, Sympathize.

Places related to “sipeto”

今回インタビューさせていただいた方に
まつわる場所に行ってみました！

— 知床標津マルワ食品さんに行ってきた! —



①



②



③



④



⑤

①手火山式の焙乾炉。鮭節製造はここから始まる。②燻しが始まった鮭。何度も繰り返して鮭節になる。③製造工程について説明する田村さん。説明にも力がこもる。④鮭の香りも付いた燻煙は集めて燻製づくりに再利用する。⑤燻しも完了間近。鮭節になるまでもう少し。

こうして、
手火山造り
鮭ぶし華ふぶきが完成!!



《丸和信和建設株式会社
知床標津マルワ食品》

住所：北海道標津郡標津町
字川北63番地5
TEL：0153-85-2235



Interview

想いを言葉にする。



16 あなたは一人じゃないよ。

まんまでいーしょ
代表 佐々木 和美さん
----MANMA DE IISYO----

一活動内容を教えてください

わたしの居場所「まんまでいーしょ」は、誰（大人も子どももお年寄りも）でも安心して過ごせる場所として自宅を解放しています。それから、イベントとして月1回、みんなの食堂「まんまでいーDay」を標津町文化ホールで行っています。

一活動はいつから？

昨年（2019年）の3月から始めました。まんまでいーDayは昨年6月からです。

一実際に活動しているメンバーは？

標津で教員をしていた時に関わりのあった保護者の方たちと、活動に賛同してくれた方たちです。

一この活動を始めたきっかけは？

中標津に住んでいた時に不登校のお子さんたちを受け入れている所にボランティアに行っていて、そこに標津から通ってきている子もいたんです。以前標津で教員をしていたのでまだ中学校とか高校とかに知っている子がいたんですけど、知り合いに聞いてみたら学校に行けてない子もいるってわかったんです。標津にはそういう子どもたちを受け入れる場所がないという話だったので、何か自分にできることはないかなと思ったのがきっかけです。

一それを形にしたのが居場所作りと食堂ですね。

そうですね。学校に行けないとか行きづらいという理由は様々だと思うしその理由がはっきりしないことも多いと思うんです。でも、お子さんもそうですけど、一緒にいる親御さんも同じ様に悩まされていると思うんです。今は無理して学校に行かなくてもいいと言われるようになったけど、まだまだ浸透している訳じゃないので、一人で考えて自分を追い詰めてしまっているんじゃないかと思うんです。だから「学校に行くのがしんどいな」とか「お仕事に行くのがしんどいな」とか「誰か話を聞いてくれないかな」とかそんな思いを抱えた時、足を向けることができる場所になればいいなと思ってここを始めました。誰かに話を聞いてほしいけど誰にも話せない、そんな時ってあると思うんですよね。わたし がそうだったんです。誰かに相談したいけど「こん

なこと言ったらどう思われるか」とか考えちゃうと話せなくなる。それで一人で考えていると、悪い方に考えてしまって、どんどん自分を追い詰めてしまって、どうしたらいいかわからなくなってしまふ。誰にも話せないって思う時って、わたしのことをわかってくれる人は誰もいない、わたしは一人だって考えてしまうんですよね。でもね、ほんとには一人じゃないんですよ。ここに来てくださった人に対して、わたしが何かを解決できるとは思っていないけど、しんどさに寄り添い一緒に考えることで、もしかしたら少し気持ちが楽になるかもしれない、そのお手伝いができたらいいなって思っています。でも、わたしがどんな人かわからない限り、ここに来てもらうことなんてできないよなって思うんです。それで食堂を始めようと思ったんです。食堂を通じてわたしを見てもらって、その中でいろんな人たちと出会いつながれたらいいなって思って。食堂に来た人が何かあった時、もしかしたらここを思い出してくれるかもしれない、思い出して連絡してくれるかもしれない、そうならいいな、って思うんです。



まんまでいーDayの様子

一この活動をしていてよかったことはありますか？

みんなの食堂で、これまでつながりのなかった人とつながれたことです。部活帰りの子どもたちや、小さなお子さんを連れのお母さん、お孫さんと三世代で来てくださるかたなど、色々な人と関わりを持つことができました。それから、来てくれた人が「美味しかったよ」とか「また来ます」と言って喜んでくださったことですね。

一今後の活動をどう発展させていきたい？

地域とこの「まんまでいーしょ」、そして行政とも連携して活動ができればいいなと思います。

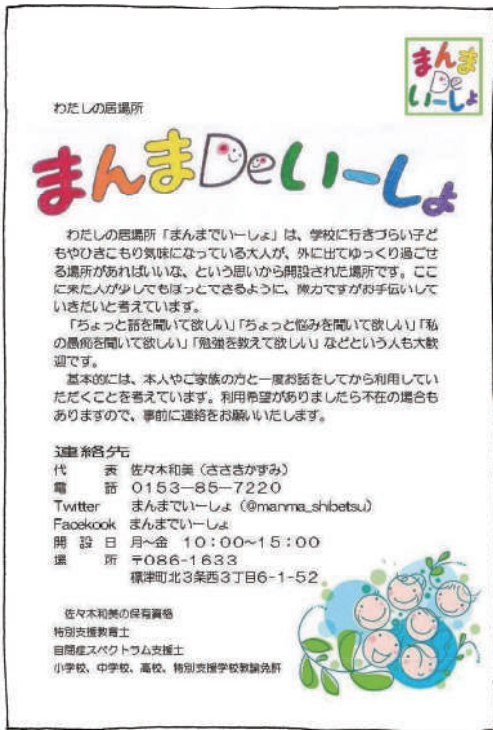
一子どもたちのこれからに伝えたいことは？

学校って、好きなことだけでなく嫌いなことも、何もかもできなきゃいけないとか頑張らなくちゃいけないとか、そんな風になってる気がするんです。しかも、やることがものすごく多くて、子どもたちは本当に大変だろうなって思うんです。そんな中で「できなきゃいけない」とか「こうじゃなくちゃいけない」とか、もっといって「できない自分が悪いんじゃないか」とか、そんな風に自分を責めたり辛くなったりしてる子どもがいるんじゃないかと思うんです。わたし自身教員をやっていたので、子どもたちがやりたくないって思うことを押し付けて、子どもの心を傷つけてきたんじゃないかなって思うんです。そうやってわたしも子ども達の自信を失わせる一端を担ったんじゃないかなって。だからこそ「そんなことないよ。あなたはあなたでいいんだよ。誰かと比べるのでもなく、こうでなくちゃいけないのでもなく、ありのままのあなたが大事な存在で、必要な存在なんだよ」って伝えたい。

ここに来たら教えてほしいな。「あなたが好きなことはなんですか？」「あなたがやりたいことはなんですか？」「あなたの気持ちが聞きたいな。あなたが本当にやりたいと思うことを、ゆっくり自分で見つけてほしいな。

一最後にPRをお願いします。

まずは、まんまでいーDayに来てみてください。一人で食べるより、みんなで食べる方が楽しいですよ。心をこめておいしいカレーを作っているので一度食べに来てください。それから、もしこの活動に興味がある方はいっしょに活動してみませんか？カレーを作るくらいならお手伝いできるよっていう方、連絡お待ちしています！水道凍結のため、当分の間お休みします。次の開催日は、決まり次第チラシやフェイスブックなどでお知らせします。再開したら、ぜひいらしてください！



17 地域の資源を地域のために。

美しい村そば造り研究会
会長 田村 正範さん
----SOBA NOODLES COLLEGIUM----

一立ち上げの経緯は？

標津町が日本で最も美しい村連合に加盟したことをきっかけに、我々も何かしようというのと、地域おこしのことを考えて、標津そば作り愛好会を作ろうってなって、せっかくだから「美しい村標津」って付けようって。

一なぜそばを作付することに？

もともとそば打ちして集まったので。なんか町が元気なくなってきて、シャッターも多いし、我々も商店やってるからこのままではよくない。ひとつ景気づけようということで、ヨシ、このそば食って楽しいんだからそばをやろう。そばの花はすごくきれいだし、美しい村にもかかる。ちょっとここに来るとそばがきれいだよとなったらいいじゃないかということ。小麦も実験してみたんだけど、種を消毒しなきゃいけない。あとは気温が足りないのもあって見切りをつけた。本当は小麦もできたほうが、標津産の二八蕎麦ができるからいいんだけどね。



そばの花

一やってよかったことは？

みんな顔色がいいから。元気にこやかだし、なんにでも参加してみようってなってることかな。俺はこのまま死ぬまでじっとしてんだ、みたいな人はい

ないし。いいんじゃない。生きる力みたいなのになつて。ヨシ、お酒飲むぞってなったら集まってくれるし。楽しいことやった後はご苦労さんってしないと。生きてる証拠だからね。そこから生まれたから、そばも鮭節も。原点はそこだからね。

一鮭節開発のきっかけは？

最初にとったそばを食べながら、それは鮭節で出汁取って食べたんだけど、なんで標津といえば鮭なのに、鮭で出汁が取れないんだという話になった。調べてみたら昔アイヌの人は鮭を乾かして、叩いて、それで出汁をとって身と一緒に食べるという食べ方をしていたというのが出てきた。鮭で出汁取れるじゃないかというので始まった。そばづくりは地域づくりの発端になれば。我々がやってるのを見て、ほかの人もこういうのやったらいいんじゃないって、そういう起爆剤になったらいい。

一鮭節はどのようにできた？

鮭節を調べてたら、PTA 仲間の親族に焼津で鮭節の老舗を営んでいる人がいたのよ。電話してみたら「作ったことないけども、やってみるかい」って話になって。いろいろな鮭で作ってもらったらブナを使ったらおいしいものができた。普段は捨てられるものを鮭節にできるというので、ヨシ、焼津にお願いに行こう。俺たちにも作り方を教えてくれ、標津町が疲弊してるんで、人口もどんどん減っているし、鮭節を起爆剤に地域の産業として雇用を増やしたり、いろんな意味でやっていきたいんだって。あとは100パーセント標津産にするために次の年にはここに工場を作った。なんかバツバツ進んでいったからよくわかんないところはあるけど、すべての根源はこのそばにあるね。

一これからの展望・目標は？

やっぱりもっと大きくしていきたい。定年退職した人たちの働き口になるようになるといいと思っている。定年退職してもまだみんな若いから。事業拡大とか新しいことに取り組みたいと思っている。大きな展望はいろいろあるんだけどね。細かいことはこれから。思いついたらやろうと思っている。地域の資源を地域の人が地域のために、というのがいいよ



インタビュー時の田村さん

ね。あとは高校や大学でいったん標津を離れた子どもたちが標津に戻ってきて働ける場所を作ってあげたい。いま働く場所がないもんなあ。

一標津町の魅力、誇りは何だと思えますか？

やりたいことができる地域であること。特に川北はそういう人が多い。だからやりやすい。昔、冬に上田組のナイターの電気がついてて、人がいっぱいいて、雪が山盛りになってて。そしたら雪まつりの準備だった。自分も参加したいと思って手伝わせてもらった。外から来た人間でも受け入れてくれた。息のあった仲間が集まって、「なんかするか」っているんな祭り作ったり、新しいことやってきた。神社祭で花火あげたりとか、除夜の花火もやったしね（笑）ここに住み続けるには産業が衰退してもダメだし、人口が減ってもダメ。地域をなくさないことを前提に始めている。だから、気持ちの中にある大きなものって、標津町を守っていくということだね。それが一番かもしれない。それが色んな形で出てる。

一これからの若い人へ伝えたいことは？

ちゃんと若い人も一緒にやって伝えていってるから大丈夫。冬祭りもみんな一緒にやってるしね。農家さんも搾乳終わってから駆けつけて手伝ってくれる。学校の先生方にも、「積極的に地域の行事に参加を」って呼びかけてる。地域のイベントには子供たちも出てますよってね。新しいことをどんどんやっていく。若い人のやることに否定的だとか何もできない。柔軟に何でもやっていければもっと良くなっていくと思う。

一最後にPRをお願いします。

そば打ち若手人あんまりいないから、若い人入ってほしいなあ。文化祭で出して、年々食べに来てくれる人が増えている。町外からも食べに来てくれるようになった。だから打つそばの量も増えていって、若い人いないと大変なんだわ。

